

四市場達觀祕錄

完

特116  
849口

206  
87



始



特116  
849口



四市場達視秘録序

吾人獨力の經營する、東京之市場に諸君より

光輝ある信望を寄せられ吾人の歎何者をか是

の御世より殊に本巻發表の都度に於て、明治

の御世より殊に本巻發表の都度に於て、明治

の御世より殊に本巻發表の都度に於て、明治

の御世より殊に本巻發表の都度に於て、明治

の御世より殊に本巻發表の都度に於て、明治

の御世より殊に本巻發表の都度に於て、明治

の御世より殊に本巻發表の都度に於て、明治

の御世より殊に本巻發表の都度に於て、明治

の御世より殊に本巻發表の都度に於て、明治

大正  
6. 2. 12  
内

残して再び立ち得ざる人枚擧するに違あらざ、  
將枝料は意外より意外に出づる事多し時とし  
て人天に捷つ不自然的波紋を演ずる事ありて  
定期賣買の悉は最も至難なる者あり、蓋し識  
者と云はず何人も懊惱する當然の事なり、然  
れども微力大勢の趨向より其道程に於ける起  
伏の豫めは遠觀し能ふる苦心の歴史を積めり、  
爰に其の秘鍵を授け前途を明とす、諸賢他を  
顧る事亦く唯々本巻を座右にしして遠進ふせ

大正六年一月

向陽 識

#### 四市場遠觀秘録

#### 總說

總じて定期賣買を為す人を二つに別けて意見  
を述べて見よう、一つは貨殖の目的であつて  
自己の向上を希ふ最も美しき最も重々たる抱  
負の下に思惑をする人と、一つは投機思想に  
促され幾度失敗するも性懲りもふく手を出す  
即ち常習的に賣買する人との二つである後者  
は論ずるに足らぬが、貨殖の目的で賣買する  
人でもいろいろ目的なり理由が潜んで居る  
事は勿論である、是等の人が拾年も貳拾年も  
熱心に奮闘し今尚成功し得ざるのみならず、

却て換害の方がズンド殖へて居る人が中々少  
なくふいに至つては實に何共お氣の毒である、  
拾年も貳拾年も奮闘を続け資力は減り健康狀  
態に影響する迄戦て今尚功を見る事出来をい  
に於ては、定期賣買に従事するも甚だ詰らな  
い感じが起る、然し夫れかと云つて見限て仕  
舞はじ今迄投じたる巨多の資金は永世返つて  
來をい、唐に然るのみならず他の事業を經營  
するも最初目的の富は到底得らるべき者とな  
い是は多く失敗家の現代思潮である、然り  
或動機に觸れ手を染めたが始りて終に巨多の  
財産を投盡し苦境に煩悶する人は無教である

此人々は如何にもして財産を恢復せん者と必  
至の努力を以て時機を祖て居る實に健げな奮  
闘振である、けれども元來最大難物の本家本  
元たる定期賣買の事であるから何程資力を入  
れようが努力を拂つた處が、其機微に徹底せ  
なければ何拾年間續け様に苦んだ處が駄目下  
ある富を得る事は不可能である、左れば如何  
にして成功者の仲間入りをするかと云ふに夫  
れに先立ち自己は今日迄如何なる思惑法如何  
なる取引法を執り來つたかを充分に回顧する  
が先決問題である、多數の人と同じ賣買法を  
為し甚しきは觀測業者に加盟して賣重<sup>ホ</sup>本思惑

を存すに至ては儲かすてき理由がない、致富  
の手録として吾人は資本力で捷つか術即ち奇  
兵で捷つか此二つよりよいと思ふ最も意志は  
鞏固なるを要す勿論である、資本力で捷つと  
云つても大勢に反抗した思惑は素より論外で  
あるが大勢なる者は株でも米でも容易に判断  
の附く者であるから、大勢に順應した賣買に  
資力を豊富にして而も極めて冷然として進ま  
ば偶々逆風に際會する事あるとも無理な大玉  
が思惑してふいのと資力は豊富であらうから却  
て逆風を利用する事が出来て結局相當に儲か  
る事が出来る、失敗者の多くは壹千圓の資

金で米の千五百石を一時に賣買したがる、越  
が見込は當てても餘勢相場で何うする事も出  
来なくなるので詰り利にのみ偏し萬一の備へ  
を欠陥した結果である、株式に於ても新東株  
の四百圓台を極力買った人は殆ど全滅である  
是を少し買込み大崩落に買収せよをふきば這般  
の引返しホて苦痛を感せずには手仕舞する事が  
出来るので、如何なる場合にも全資力は勿  
論其半額すら投資しては左らぬ、高直でも安  
直でも萬人の豫想する直段よりは餘勢的の行  
過ぎある者が必ずあるから儲けると云ふ事よ  
り損をするが嫌である、と云ふ心懸けて急がす

細かく牛歩的に一度に儲けるより拾度に儲ける計畫で思惑するが決局確に大成功となるのである、近例として株式成金の末路を見れば分かる、以上は資力ヲ豊富にして思惑するの希望であるが資力カネを勤カネをま人は如何なる方法を運らすかと云ふに是は術即ち奇兵で行くより任方がふい、金と金と戦いの場所、臨ム=薄資本を以て彼等と同一の思惑をするには、是非共術でふくば行かぬ術を知らぬ人でも偶には高金を得る事あるも終には失敗者となる、大軍を敵とすにはは術を多くては到底捷てぬ事は何事でも同じである、然らば術を有る者は

如何吾人の秘藏する三種の極秘あるは、大体に於て強弱互角の勢力の場合即ち大中小保合の場合には休戦する事を忘れてはならぬ保合が上か下か是を捷ち得んとするが甚だ且敷をい寧ろ一方の勢力捷ち益々追窮して一方を軍門に降らしあたる刹那又は夫れより以後若干日間とナニピン式を以て賣買為さば大幅の利益は確に得らるるのである、要は一方の疲弊するを徐に待つのと又相手の一方は既に近く態度を急変するに相違ないから此間一髪に果するるのである、此地種々なる方法があるをれど複雑に付き芝居を御訪ね下されば御話し致す

一般株式の大勢

政界の大立物大隈侯爵の後を受け、寺内内閣が成立した、召集された議會は忽ち解散となつたが、兎街は却て是を逆に買煽つたと云ふ始末である、何か現内閣により新規有力ある材料現迄期待した者に見へる、果して現内閣により一道の光明が兎街を照すかどうかは疑問であるが、大崩落後の株式市場は實際上は意外なる滲漶たる者であつて是を救済するには餘程の好材料が出来るかは利目がなほ、殊に夫れは餘り時々を経過すゝ事を許さぬ、とは去ふ者の是は買方の告白であつて自衛上少し

も無理のない注文である。吾人は急に買材料  
の實現を信ずる事は出来ぬ、のみならず四苦  
八苦して受株されたる巨額の天井玉は平時と  
異り最大の壓力を以て昂上を阻止するから時  
日を遷延する者と見ねばならぬ、全体過敏の  
暴落に際し受株した者は資産家と云ふより相  
場師側が多いから一層面白くないのである。此  
種の者は何時迄も持耐へて居る事の出来ぬ  
人だから或時期が来れば処分的に賣らされて  
仕舞ふ又賣らねばならぬ時期となるから、此  
所謂整理期を一つ我慢せねばならぬ、持株筋  
にして巧に此波浪を切抜ける事が出来れば、

後は洋々たる大海に金帆を上げて航する如く  
得意の時代となるが維持の出来ない人も憐  
れである、要するに上半期の株式大勢は非既  
期を通過して、始めて樂觀時代を迎へる者と  
解釋を下した



### 株式賣買の方針

大勢にして斯くの如く論断を下せる吾人は妄りに買方針を推奨する事は出来ぬ、即ち昨年十一月の大暴落は八月發行、吾東京之市場に通論せる如く豫定の崩落であつて當然なくしてはなりぬ相場である、而して其大暴落に對する百円也百五拾円の反掩があつても聊も不思議でない、寧ろなきてはならぬ処でないが、此度りに高直の實株を繋ぐ者があるか恐らくあつまい、ドシ／＼繋いて呉れ、ば底入濟とをり本物の立直りとなる段取に行くのであるが一月五拾円上つても未だ／＼繋がないに相

違ふしだ此繫物は別とするも買恐怖は却々一掃されまいのと財界の状勢も一寸面白くふいから暫らく樂觀買する事は出来ぬ、方針として後らく噂しきも存疑としし信まよばるるこい、而し何時迄も噴直賣を一貫する事は無論出来ぬ別項を未酌してドテニ買の時期を逸してはならぬ

### 勇躍せよ第三期戦

第三期戦とは最後の活躍即ち真の熱狂相場實現を云ふのである、昨午の奔騰も猛烈で熱狂相場と云はれたが吾人より観る時は勢狂と終する價値を認むる事出来ないのである、白熱相場とは奔騰又奔騰終に大脱線高を演せねば白熱でない熱狂をなへ、真の大相場は確に取残されて居るのである、併し夫れは時期の問題でありであるから安い処は注意の買場として定期でも現物でも是非共買して買きたい者である、半抱が金、必ず機の到るに於ては想外なる巨利を占める事が出来よう、読者の内に

第二期戦に於て失敗せし人あらば紫禪一番此  
第三期戦に於て復仇の陣を張り過去の経験を  
鑑みつゝ、大に戦ふべし、其白熱相場實現期は  
左項に豫想を掲ぐ

### 大白熱相場實現の時期

過般の暴落により熱狂相場は先づ一段落を告  
げた者と解釋して居る人少くない、成程時局  
關係株の内には殆ど熱狂に近い奔騰を演じた  
者もあるが、是等は實質より來る當然の成行  
であつて市價は奔騰したりと雖も熱狂と稱す  
る事は出來ぬ、大休日獵の崩落を多くの人は  
意外として居る、意外なる崩落であつて今尚戦  
々競々として居るから甚だ困る、其當時は金  
融界調節的變調と恰も調和説の鉢合せて一瀉  
千里に崩れたるけれど、昨年六月発表の吾達規  
録には新東株の高直は四百五拾円と断定を下

して置いた通り大れ以上は尋く行く事出来な  
い、換言すれば四百五拾円にて大反動期に入  
ると云ふ意味であるから、恰度其直欲に  
於て偶然誰和議を企画すとの勇言、實に突  
発されたのである、斯くて慘憺たる大崩落を  
演じたので丁度中樞に於て一息入れたのに等  
しい、是が中樞で止らずズン／＼昂騰を続け  
大樞迄一氣に暴騰した相場亦れは第二の白熱  
相場は断然絶望とするも、中樞に於て一時休  
養的下押をして呉れた丈け前途は實に有望で  
ある、処が白熱時代は何時頃循環し來るやと  
云ふに此上半期間には六十數日が本年九月頃

には一大爆発相場を演ずる事と思ふ、時日が  
斯様に遅れては高直の買玉を推す人は益も  
若くは苦痛下あるといふと、高直に暴騰さ  
んとせば夫れ丈けの素地を擦へねば上る弾性  
に欠く了処があるから此位を日數は正心事を  
得ふい、

### 戦後の株界

客観的より云はじ戦後の交戦國は鋭意經濟狀態の復舊に努め爲に、吾貿易市場の好勢は一轉して正貨の流出とあり、株式市場の受くる打撃も随分激甚であるうと相像を下す處であるが吾人の觀察は戦后直に吾株式市場を襲ふ者とは全然認る事が出来ない、平和成立する見當の附かふ以上例へて平和成立するとするも、交戦國の經濟狀態は斯く急速に復舊する謂れがないから正貨の流出を畏れて戦後の株式市場を直に悲觀するは早計であるまいか寧ろ戦后は戦後の需用として、有力なる重要輸

出品の大輸出となり一時的ながら株界人氣を引込こし、其反響現る者も觀て居る、故に危い時局株を避けて他の堅貨を、其處に思慮を置かば、懸念に及ぶまい、

# 株式の騰落

愈々是より本巻の主眼とすべき、重要諸株に就て大正六年二月より今年七月に至る此間六ヶ月間に於ける、最高最低値段、並に運用法を叙述すべし

## 第壹 東京株式取引所株

七百日の八百円のと有項天になつて、買捲られた者の大体過般の沸騰は時局株の刺戟に過ぎぬいから、此株も或程度迄は勢ひ煽り上げた者の、程度以外へは一步も飛出さなかつた。即ち昨年六月の本巻には東株の高直四百八拾円也と示し第二高直は期間中實現せざる見込

かりとある、是を以て見るも時局物の空騒ぎを冷然として落附拂つて居たのは流石に豪い、十二月の高直四百八拾円より二百六拾円台への急落は聊が猛烈に過ぎたが、是は狼狽投げの結果であるから斯の様を急下げと云つた、併し此下げは新規買方の為には絶好の機会を作らされたのである、唯困る事には、買手若干月間辛抱させねばならぬ事である、買手抱を為さば大熱狂は多少遅るるとも大幅なる利益は必ず白むる事が出来る

## 高直の標準

第壹高直

四百貳拾圓

第貳高値 六百拾圓

安値の標準

第壹安値 貳百拾圓

第貳安値

運用法 此後漸次引返す事あるも、第壹安値  
を見る事あるべし、然る上に於ては始めて連  
大なる目的に於てナンピン式を以て買思惑を  
立つべし、第參高直に本期中に實現不可能の  
先込ふるを以て差略す新氣株は本表を未照し  
て進退あるべし注意本株にして萬一第一安値  
を現す以前に第一高直へ進まず第一安値を標  
的に賣進して直に質問券を以て臨株の処置を照

會さるべし

第貳 日本郵船株

時局株での第一位にある日本郵船株の今后六  
を注意を怠つてはならぬ、昨年十二月には沖  
天の勢を以て終に四百圓の大關門を突破して  
四百八圓の高直へ躍進した、然るに倒の問題  
で流石の人気株も急転直下大瓦落を演じた者  
の、忽ち跳返して今は相當なる直段を維持し  
て居る、此株は時局と密接なる關係を有する  
丈けに波瀾も却々油断がふらぬが、併し爰一  
年内外は毫も悲観に及ぶまいと思ふ、平和が  
成立した処で直に崩落する様な事は事實に於

有り得べからざる事にて、平和后も或期間内は現状を維持する事確に出来ようと思ふ高直を相まば利を見る事困難なるも、安直に落して来た処は是非買込で置きたし

高直の標準

第壹高直 参百九拾圓

第貳高直 四百八拾圓

安直の標準

第壹安直 貳百参拾圓

運用法 第一安直は貳百参拾圓ホリ此安直を現せば極力買ふるも貳百五拾圓位より買始むるを要す、第三高直は期間中實現せざる見込

に付掲けず

第参 東洋汽船株

後々安直へ引落し来るを待ち買ふべし、決して急ぐの要なし、此株は前途見込あり、其以前に相當なる下押しある等あり、其押目には躊躇せず買進むを要す

高直の標準

第壹高直 百四拾八圓

第貳高直 百八拾五圓(時日遠し)

安直の標準

第壹安直 八拾圓

運用法 第一安直を實現せば買下るべし安直



は若干の行過ぎある者とする

#### 第四 鐘ヶ淵紡績會社株

營業成績の良好に郵船株と負けず劣らずに買  
煽られ北濱市場の如き参百貳拾五円迄突飛し  
た、是は會社の實質に人氣具。其くの如  
く小熱狂的高直を出したのであるが、参百円  
台の高直は時期より見て餘程脱線した相場  
であつた、夫れが為の二百円割れ、大崩落した  
のである、前途本日直に此株に対し樂觀説を  
唱ふる事は出来ぬが、幾多の人氣転変を経過  
した揚句は依然として買進を呼ばねばならぬ、  
注意を要するは此株は例へ實質が良好にせよ

思切て買上げられた丈に其反動として他株  
に比し割合多くの下押しを一度しておふけれ  
ば亦らぬ理由があるから左項の直段に重きを  
置かず急がず思惑するを要す

#### 高直の標準

第壹 高直 貳百七拾圓

第貳 高直 参百八拾圓

#### 安直の標準

第壹 安直 百五拾圓

運用法 第一 安直附近へ來らすれば買方針を立  
つる事勿れ

#### 第五 臺灣製糖會社株

凡ての製糖會社株を代表して台湾製糖株を掲ぐ、即ち高値正値にして糖株を代表するに足るか故なり、左記に掲ぐる各直率にして實現なきば凡ての糖株をも極力買進するべし

高値の標準

第壹高値 壹百八拾圓

第貳高値 期間口實現さざる見込

安値の標準

第壹安値 百圓

運用法 第一安値を現さば尚若干下押すも然として買方針一貫すべし

第六 日本石油會社株

有望なる日本石油株獨り過敏の奔騰相場に伸力比較的鈍く貳百圓を突破し得ざりしは客觀的方面に種々の理由あらんも主觀の方面より見る時は前年の石油相場に獨歩の大昂進を爲したるが故なり、然れども此国縁は最早消滅したるを以て次回の沸騰には或は先驅者として白熱相場を現すに至らん

高値の標準

第壹高値 百八拾圓

第貳高値 貳百六拾圓

安値の標準

第壹安値 百參拾圓

第七 東京瓦斯電燈株

東京電燈は今日の直段を買い餘り見込をし六拾円割れより買始むべし、東京瓦斯は電燈に比し利鞘を得る上に於て面白し五拾円内外より買始て可きり

第八 横濱取引所株

多くの場合此種の株が脱線高を演ずる時は他の株は下り坂となつて居るのである、詰り物色買の表現の最極であるからだ、是も當分買に妙味なし崩れを待つが安全である崩れて后五拾円揃てもあらば大に買進むべし時日を我慢をさば百円下り迄は引越す標株あり

第九 南滿鐵道新株

南滿に就て何が見込がよいかと云つても別段今直上何々と説明する事が出来ぬが、併し深く信ずる処があるから此株の安値は買思惑を是非御薦めしたい、今日五拾四五円にグズくして居るは何れから見ると理屈に合はぬと思向ふ半歳間辛抱する積りで安い処は兎も角買

高値の標準

第壹高値 七拾五圓

第貳高値 百。五圓(時日稍遠し)

安値の標準

第壹安値 五拾圓内外

第拾 日本興業銀行株

買て損をせかい株は此株であらう夫れも直段  
によるが五拾円台を買つて置けば偶には一寸  
二三円も逆の事あるが結局利を入れる事が出  
来る故に他日五拾五円以下の直段を現さば定  
期でも可し、現物でも可しウント買仕込み機  
會を待つべし

第拾壹 大坂取引所株

大株は七百円台の高直を出して先づ熱狂相場  
を發揮した、大株が熱狂相場を出したに、関ら  
ず肝心の東京取引所株が冷静であつて是に附  
随せよかつたは、関西方面が富の偉力で斯く

迄煽つたので人氣の極を示した者である然ら  
ば大株が熱狂相場を出し船株、時局株が是又  
熱狂的相場を出したるに東株を始り他の一流  
株が未だ熱狂を現して居ない或は大株を始め  
時局株の奔騰により大相場は一段落かとの疑  
念が唯！と生ずる処であるが吾人の觀察は、  
昨年迄は時局物が當然活躍する順序であつて  
時局物が活躍すれば大株も是と歩調と等し小  
する勿論であるから、第一期第二期戦とは此  
順序で来たが今度は平和の如何に關らず、財  
界に於て何か最も價値ある材料の發現により  
本株を始め他の堅實なる一流株を中心に最後

の熱狂を演じ是を以て成金相場の幕を下ろす  
事とふるであらう、爰に於て大株は既に熱狂  
相場を昨年 に於て済ました事であるから第三  
期戦には他の株と同一の歩調で沸騰する事に  
困難であらう

高値の標準

第壹高値 四百五拾圓

第貳高値 六百八拾圓

安値の標準

第壹安値 貳百貳拾圓

以上は大正六年一月十五日迄の経  
過により断案を立てたる者あり、  
形勢の変化並に更改を要すべき必  
要に迫らば、東京之市場臨時増刊  
を以て急報すべし

### 定期米の大勢

諸物價の昂騰より、米價は割安なりとて所謂時勢買なる人氣隨所に生れ、専ら貳拾圓説を唱ふるに至つた、又一面に於ては株式筋の一派熾に買出し、舊獵の如き其勢の凄しさ當る可らざる者があつた、大體昨年米の上げ始めたる十月であつて其當時は拾四圓前後と記憶して居る其安値拾四圓から拾貳月には拾九圓貳拾錢と約五百丁の大奔騰であつた、然るに此時勢買の一團、株式筋の一派は五百丁の大暴騰に何程の利益を收めて居るかと云ふに、實際彼等の買出したは昨年十一月からである。

順況に向ふに従ひ高直は益々高進んだ者だ、  
旭が正米筋は御手の者だけに凡ての内情を調  
査して居るから十一月の下旬より時勢買を對  
手に熾に賣弾を浴せ出した而も其數無盡蔵の  
様に見えて終に市場を壓迫して全然軟化せし  
め斯くて今日へ及び來つた處で今年上半期  
の米價大勢は何りであるかと云ふに、正米業  
者は尚々賣手を緩めざるべく是に對する買方  
は既に大部分落城の悲況にあるを以て到底優  
勢なる賣方に指抗する事は出來ぬ、新規の買  
方が現るゝとも一時的の反響に過ぎまい、又  
大問題の實收額も豫定通り五千五百萬石以上

の收穫を得るらしいから長い間とは云はぬが  
當分間軟勢を繼續し而して後急騰に入る事と  
觀察して居る。

### 定期米賣買方針

今年も米は高い歳柄であるとは既に衆口一致  
する處である、然り今年は確に高い歳柄であ  
るが今より買思惑を立つる時斯くない、若し  
此邊にて買出さば著しき不利を見るから決し  
て買つてはならぬ、米でも株でも高直より引  
落し少し戻り氣味になると誰しも買ひたがる  
是か甚だ不可ぬ、即ち直惚れとか跡覺へとか  
云ふので其様な了見では儲かる者でない、大

體の原則は大天井より或程度迄引落し多くの場合は跡覺へに人氣が買に行く者であつて云はじ泡の様な者である。此跡覺へをしてから更に大きく瓦落を演ぜなきや出直りとならぬ者であるから戒め置くべき事である。併して此上半期の方針は如何に定むべきかと云ふに當分間は売り賣を継続し三月に入り徐々態度を一變せねばならぬ。上半期間は意外な高直は出ぬにして四月を経るに依り益々高くなるから三月より別項を参照して奮然硬化する事を忘れてけならぬ。

### 天底すべき時期

正米關係此他種々の理由によりウント賣込で来りし時が即ち大底直となる。此大底直を實現する時日並に期間中最高直を出す時日を示さば

一大底直實現期 參月中旬

一高直を出す時期 七月下旬

但し正米は必ず賣る勿れ

### 最高最低値段

種々の調査を完了し、本期間中に實現すべき最高直段、最低直段を連觀した、時日の遅速と多少直項の差あらんが歸着点左の如し

### 高價の標準



貳拾壹圓五拾錢

安價の標準

拾四圓八拾錢

運用法 今後何程好勢を示すと安値の標準位附近迄下押し来るを以て徐に機を待つべし

突貫すべき標準價

既に大勢高しとする以上最早賣追撃の時期でない、是から下る相場を追撃した處で餘り香しくないのである、併し何かの動機で大幅の戻りを為さば拾五圓五拾錢を標準に賣るも可し、其處で突貫買すべき標準價であるが、先

が拾五圓貳參拾錢見當より下た直程力を入れたるのである、尤も此際は所謂底固めとして何日もし小往來的保合を為すであらうが、是は今岐すべき自然の現象であるから寧ろ歡迎して飽迄初志を貫かねばならぬ。

正米業者よ一大準備を為せ

敢て正米業者に限った譯でない、苟も米に係を有する人は今年の大暴騰を必ず見逸してはならぬ、今年の大暴騰は昨年のように上つては叩かれ又同一の事と繰返す相場で僅に十月十一月とは昂進力が續いた者の殆ど押目なしの上急激なあつたから比較的利を得た人は

少ない、處が今年は三月頃よりザリ、昂騰し、多分六月早々から歩調激烈となり大に沸騰するから能く當時の實業と對照して、機敏なる行動を執て欲しいのである、正米業者諸君並に米穀に關係ある人、多数雇人を使用する向に在つては底入月と底直と参照し買思惑を立つる上に於て豊富なる資金の準備を今より爲し置かれよ、何事も出發点が肝要夢々時期を逸す勿れ、

何故斯く買方針を鼓吹するか

并は非常なる確信があるからである、今年もそれは買一貫を少し大膽にやれば思の外なる富

を得る事が出来る、従て今年の期米戦に最も肝要なる條件を忘れてはならぬ條件とは何か、即ち利喰をするなと云ふ事である、利喰をせずには下つたら何うするかと云ふ疑問が生じて来るが、利喰をすれば買ふ事が出来なから若し利喰をするも半額は常に残し置き半額だけでは利乗せせやればよいと思ふ、殊に今年には本巻の期間後が高いから正米等はなるだけ變の善良なる者を撰み買込で置く必要がある、而して吾人が飽迄買方針を叫ぶ理由は、實に左の原因を達觀したに依る

(一) 實收額に就て種々の風説を産む概あり

り

(二) 三月中旬か下旬大坂を策源地として  
 真の買聯合成立する氣あり

(三) 四月上旬より何國へか不明なるも大  
 輸出米を為す徴見ゆ

(四) 六月又々東京を策源地として別派の  
 有力なる買聯合成立す

以上は種々の苦心を経て達觀したる者以て考  
 考の爲め敢へ置く事とせり

大正六年二月より  
 同年七月迄 毎月の高低方針

二月 發會より四五日戻りあるを待て賣  
 なり

三月 或は大上鞆に發會する日中甸迄戻  
 り賣なり、中甸より下旬の安直時  
 買

四月 發會より二三日押目あるとも買な  
 り、中甸より下旬一押あり

五月 發會より中甸へ相當なる下押しあ  
 り、十一、二日頃より買出すべし

六月 成行買

七月 前月好調ならば發會より一押しあ  
 らん、多分十日頃底を入れ沸騰す  
 べし

右は各月の方針を熱心に達觀し示したる者な

り、時日の遅速は免れず、大長穴金と大長に  
より思惑あるべし

### 生絲の大勢

後の生絲は如何なる歩調を辿るべきかと云  
に最早買に妙味は全然ないと思ふ、今は定期  
先物の百貳拾八九円を往來して居るが、前途  
は一級の崩れを演ぜねば納まらぬ、崩れた後  
は突飛な直段を出すに相違なきも、長き時日  
を經過した後であるから、當分は辰り賣一貫  
と見て可い、左項に安値の程度を示して置く  
から此直段が出ればウント買はねばならぬ

高値の標準

第壹高値 百六拾圓(時日遠し)

安値の標準

綿絲の大勢

今一步にして貳百圓の大関門に突進せんとし  
た綿絲も例の問題により、急轉直下百六拾圓  
一際へ引落した、今は戻り氣味で百八拾圓内外  
を往來して居る者の、近き將來に於て尚々安  
直を出す事となる、爰で戻り百九拾圓内外を  
附けたなれば戻りとして賣るべし高低歸着点  
左の如し

高値の標準

一貳百拾圓 時日達し

安値の標準

一 百 参 拾 圓

注意 百三十円の安直を出現なせば是非買  
思惑を立てられよ

質問券に就て

- 一 質問又は諮問はふるべく簡捷に記述し解し  
易きを要す
  - 一 質問又は諮問は別紙添附の質問券を添へら  
るべし
  - 一 郵便にて回答を要する場合は三銭切手封入  
の事、電報にて返信を要する場合は返電料  
封入の事
- 右條項相定候也

104  
87

複並漢不  
製仁譯許

大正六年一月二十八日印刷  
大正六年二月一日製本  
大正六年二月三日發行

編輯兼發行者 時田尚夫  
東京市京橋區木挽町一丁目十四番地

發行所 東京之市場社

電話 東京橋本 〇七七番  
振替口座 東京 〇六〇番  
同社主用口座 〇九〇五番  
發售略號 卜千又八卜

終

